

平成 17 年度高知県橋梁会見学旅行

右城 猛

1. まえがき

高知県橋梁会では例年 6 月または 7 月に見学旅行を実施している。今年は 7 月 15 日から 16 日にかけて、一泊二日の日程で宇佐市院内町の石橋、耶馬溪の青の洞門、PC コンポ橋の工事現場、湯布院の民芸村・金鱗湖、別府の地獄池、臼杵の石仏を見学してきた。行程は表－1 に示す通りである。旅行会社はいつもの名鉄観光サービス(株)高知営業所で、添乗員はお馴染みの中上貴之氏であった。

参加者を表－2 に示す。玉井佐一会長をはじめとする総勢 20 名であった。フェリーに乗る都合で出発が 6 時 20 分と早朝であったが、誰一人遅れることなく予定通り出発することができた。

表－1 旅行の行程表

月日	行 程
7 月 15 日 (金)	NTT 東局(6:20)⇒ナンクスーパ⇒南国道の駅⇒(高知自動車道)(松山自動車道)(国道 197 号)⇒八幡浜港(10:15 発)⇒(宇和島フェリー)⇒別府国際観光港(12:55 着)⇒別府 IC⇒(大分自動車道)⇒日出 JCT⇒(宇佐別府道路)⇒院内 IC⇒道の駅いんない・荒瀬橋・鳥居橋⇒(国道 10 号)⇒青の洞門⇒PC コンポ橋工事現場視察(16:00～17:30)⇒(国道 212 号)⇒(県道 28 号)⇒深耶馬溪⇒(県道 28 号)⇒玖珠 IC⇒(大分自動車道)⇒湯布院 IC⇒コーワパーク由布院倶楽部 18:20 着
7 月 16 日 (土)	ホテル 8:30 発⇒湯布院民芸村・金鱗湖⇒別府地獄巡り(血の池・竜巻・海地獄)⇒臼杵石仏⇒臼杵港 14:40 発⇒(宇和島フェリー)⇒八幡浜港(16:55 着)⇒(国道 197 号)⇒(松山自動車道)⇒(高知自動車道)⇒南国道の駅⇒東部郵便局⇒得月楼(19:40 着)

表－2 旅行参加者

No.	部屋番号	氏 名	所 属
1	310	安見 和夫	(株)愛橋 高知営業所
2	310	西川 準二	(株)アンプル
3	310	武内 豊	北村商事(株)
4	310	佐野 健	北村商事(株)
5	311	吉田 幸男	構営技術コンサルタント(株)
6	311	友田 一志	構営技術コンサルタント(株)
7	311	坂元 陽祐	ショーポンド建設(株)高知営業所
8	311	中村 和弘	(株)相愛
9	312	玉井 佐一	(株)第一コンサルタンツ
10	312	右城 猛	(株)第一コンサルタンツ
11	312	関山 雅彦	(株)第一コンサルタンツ
12	312	大西 一賢	(株)第一コンサルタンツ
13	313	森下 伸裕	(株)鉄建デリッジ
14	313	右城 義文	(株)鉄建デリッジ
15	313	水杉 哲郎	(株)ピーエス三菱 高知営業所
16	313	橋田 恭司	ピーシー橋梁(株)四国支店
17	314	針木 広幸	ピーシー橋梁(株)四国支店
18	314	有光 政彦	ピーシー橋梁(株)四国支店
19	314	浅井 博之	三井住友建設(株)高知営業所
20	314	山崎 喜一郎	三井住友建設(株)高知営業所

2. 高知から別府国際観光港へ

高知駅前観光からの貸切りバスは、南国 IC から高知自動車道に乗り、川之江 JCT から松山自動車道、大洲自動車道、大洲北只から国道 197 号を走り八幡浜港には 9 時 40 分頃到着した。10 時 15 分発の宇和島運輸フェリーに乗り、別府国際観光港に着いたのは 12 時 55 分であった。



山の谷間を縫って走る松山自動車道(中山町付近)



八幡浜港の対岸に見える山の斜面には、裾野から尾根まで段々にミカン畑が広がっている



海水の中を泳いでいる鯉を珍しく眺めながらフェリーの出発を待つ



昼食にはまだ早すぎるが、フェリーに乗り込むなり弁当を広げてビールを飲む

3. 院内町の石橋

宇佐市院内町には、江戸時代の終わりに昭和の初めにわたって架けられた74基の石橋が存在する。深い谷の両側に集落が点在するという地形上の理由から石造アーチ橋が主体になっている。石橋を架けたのは院内の石工達で、名棟梁・松田新之助に代表される院内の石工による匠の技が「日本一の石橋の町」をつくったと言われている。

私たちが見学できたのは、道の駅「いんない」の側にある荒瀬（あらせ）橋と宇佐別府道路院内 IC

の側にある鳥居(とりい) 橋の2橋だけであった。いずれも石工の松田新之助によって架けられた橋だ。

荒瀬橋は大正2年(1913)に架けられた橋長47.4m、橋幅5.95mの2連アーチ橋である。橋高18.3mは町内で最も高い。鳥居橋は大正5年(1916)7月に架設された橋長55.15m、橋巾4.35m、橋高14.05mの5連アーチ橋である。この橋のすらっと伸びた優美な橋脚は気品さえ感じることから、「石橋の貴婦人」とも呼ばれている。



院内町の荒瀬橋をバックにして記念撮影



石橋の貴婦人と呼ばれる院内町の鳥居橋

4. 本耶馬溪と青の洞門

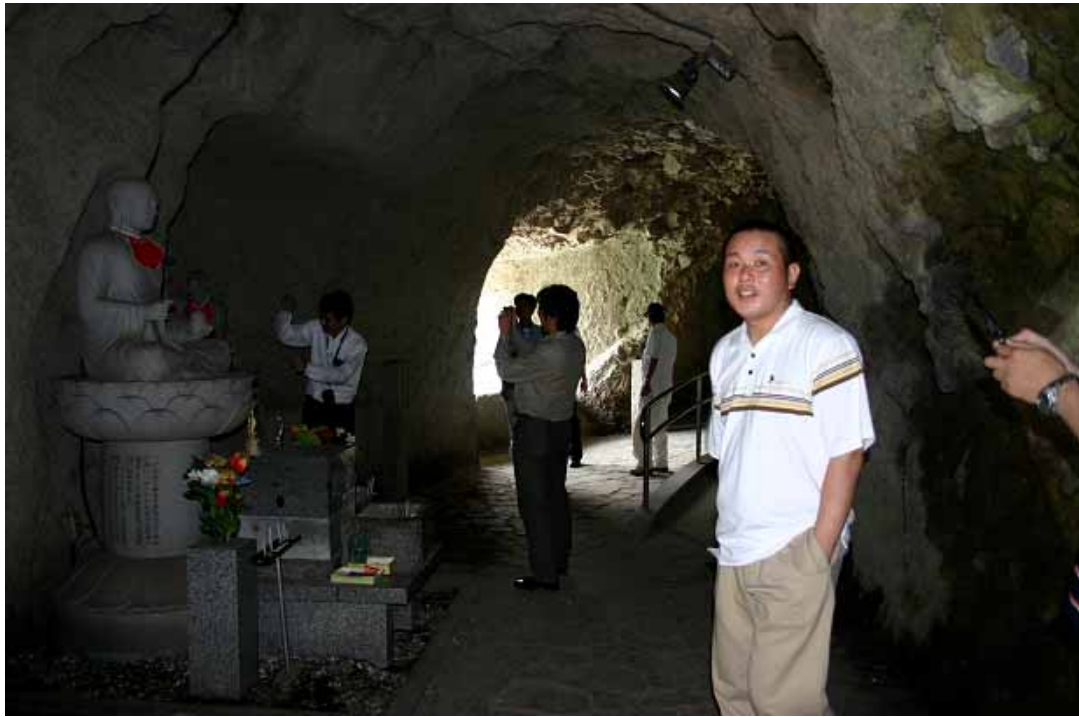
本耶馬溪町の山国川に面して大黒岩(だいこくいわ)、恵比須岩(えびすいわ)、妙見岩(みょうけんいわ)など9つの岩峰がそそりたっている。これらの岩峰は、いかに秀でているか競いあっているように見えることから競秀峰(きょうしゅうほう)の名が付けられている。凝灰石の層が帯状に浮かび上がっていることから帯岩(おびいわ)とも呼ばれている。

山国川のほとりの競秀峰の裾に、250年ほど前に掘られた素掘りの洞門が今でも残されている。「青の洞門」である。諸国遍歴の旅の途中この地を訪れた禅海和尚が、鎖渡しと呼ばれる難所で命を落とす人馬を見て、村人のために安全な道をつくることを決意し、ノミと槌だけで30年の歳月をかけて約342メートルのトンネルを掘り抜いたと言われている。

禅海和尚は越後(新潟県)の人で、青の洞門の工事にかかったのは49歳のとき。所どころに明かり採りの窓まで穿ったこの道を歩けば、荒いノミ跡に想像を越えた禅海和尚の艱難辛苦を見、まさに岩をも通す一念に驚かされる。禅海和尚のことを菊池寛が「恩讐の彼方に」という小説にし、国語の教科書にものったことから「青の洞門」全国的に広く知られる観光名所となった。



山国川の右岸に面した競秀峰



青の洞門の中にある禅海和尚の像



禅海和尚が掘った青の洞門の中で記念撮影



道路の 25m 上方を通っている競秀峰の探勝道



探勝道に鎖が張られているので安心して眺望を楽しめる(大分合同新聞 2004 年 11 月 26 日)



青の洞門の入り口にある禅海和尚の像

5. PC コンボ橋の工事現場

中津日田道路の耶馬町大字西谷に施工中の中津日田3号橋を見学する。中津日田3号橋は、橋長95m(下り車線は84m)、全幅20.16mの3径間連結PCコンボ橋。

PCコンボ橋は、PC合成桁橋の一種である。主桁にI形断面より少し上フランジ幅を大きくしたバブルT形断面を使用し、床版には工場で製作されたPC版を主桁上面に設置し、その上に場所打ちコンクリートを打設して合成床版とする構造である。RC床版タイプの合成桁橋と比べて、吊り支保工などの現場作業を大幅に軽減できる特徴がある。

現場見学に先立ち、事務所一階の会議室にて、工事を担当されているピーシー橋梁の現場代理人の横田恒明氏より、工事の概要や施工において工夫された点などの説明を受けた。



工事の説明をされるピーシー橋梁(株)現場代理人の横田氏



横田氏から工事の説明を熱心に聞く高知県橋梁会の会員



3 径間連結 PC コンボ橋の工事現場



ピーシー橋梁(株)の現場事務所の庭で記念撮影

6. 深耶馬溪

現場視察の帰り際にピーシー橋梁(株)から冷えた缶ビールを2ケースもいただいた。そのビールで喉を潤しながら、バスで大分自動車道玖珠 IC に向かって県道28号線を北に走った。

車窓の外に広がる深耶馬溪(しんやばけい)は、日本の新三大景勝地の一つと称されるだけあって絶景である。山国川支流の山移川の水を貯えた耶馬溪ダム湖周辺、夫婦岩、烏帽子岩、仙人岩などの奇岩奇峰が林立する一目八景(ひとめはっけい)は筆舌に尽し難い。山移川の溪流も青森県の奥入瀬溪流に匹敵する美しさである。秋の紅葉の季節には、是非、訪れて見たいものと思った。



深耶馬溪の奇岩

7. 由布院(湯布院)の街

湯布院町のホテル由布院倶楽部に到着したのは18時20分であった。「ゆふいん」の正式な漢字表記は「湯布院」のようであるが、「由布院」と表記されることも多いのでややこしい。

由布院倶楽部は会員制ホテルであるので会員以外は泊まることはできない。ホテルのオーナーが建設資材を製造・販売している「株式会社ダイクレ」であったので、そのご好意により格安で泊めて頂くことができたのである。

ホテルに着くなり浴衣に着替え、大浴場で汗を流す。19時より玉井佐一会長の挨拶で宴会を始める。21時45分、幹事役の武内理事の音頭による一本締めでお開き。

由布院盆地には沢山の川が流れ込んでいる。そのせいで霧が多い。宿泊した翌朝の由布院も濃霧に包まれていた。朝風呂を浴びた後、ホテルの自転車をレンタルして早朝の湯布院を散策する。

湯布院の町には、他の温泉街に見られるようなケバケバした様子は全くない。町の周辺には田園地帯が広がり、田圃の中に洒落た美術館や喫茶店が目につく。都会の若い娘に人気があるレトロ調の店が多い。



宿泊した由布院倶楽部（旧コーワパークホテル）と高知駅前観光の貸切バス



濃霧が立ちこめた早朝の由布院の街



田圃の中に美術館，喫茶店などがある



レトロ調の店が建ち並ぶ由布院湯の坪やすらぎ横町

8. 湯布院民芸村と金鱗湖

湯布院の観光名所は、金鱗湖とその隣につくられた由布院民芸村。

由布院民芸村には、水車小屋や茅ぶき土蔵造りの建物、昔の郵便局などがある。水車小屋の中に入ることができ、石臼で精米していた昔を懐かしく思い出した。水車小屋の中には、唐箕（とうみ）も展示されていた。茅ぶき土蔵造りの建物の中には、昔懐かしい農耕用の器具や陶器・竹工芸品・民具などが展示されているが、写真撮影は禁じられていた。

民芸村に移築されている昔の郵便局の中には、宛先の住所が「高知縣土佐國高岡郡須崎」という大変貴重な手紙が展示されていた。第2次府県統合で名東県(現・徳島県)が高知県に合併された時期(1978～1890年)がある。この手紙はその頃のものと思われる。



湯布院民芸村の入口で記念撮影



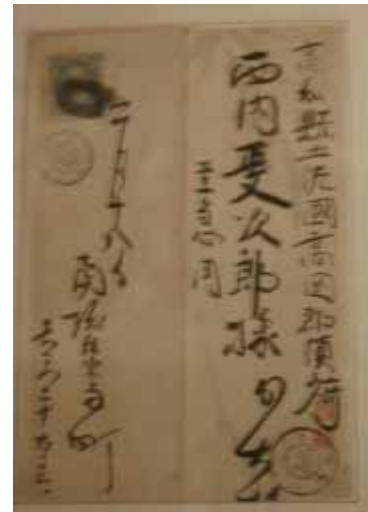
水車小屋



石臼で精米する様子



水車小屋の中に展示されている唐箕（とうみ）



貴重な手紙



金鱗湖や民芸村の周辺の観光案内をする人力車

金鱗湖（きんりんこ）は、以前は「岳本の池」と呼ばれていたが、明治 17 年儒者「毛利空桑(もうりくそう)」がこの地に訪れ、鮒(ふな)の鱗(うろこ)が金色に輝くのをみて「金鱗湖」と名付けたのが呼称の始まりのようである。昔は現在の数倍ほどの大きさがあったが、数回の地震による山崩れで埋没し、湖面が狭く、そして浅くなってしまったと言われている。金鱗湖の湖底には温泉と冷泉が湧いており、冬でも水温が高い。湯布院で霧が発生するのはこのためという説もある。

この湖にはテラピア(外来魚)、フナ、鯉、ハエ(ハヤ)などの魚を見ることができる。



金鱗湖を背景にして記念撮影



金鱗湖に繁殖しているテラピア

9. 別府地獄巡り

別府の地獄には、海地獄、山地獄、白池地獄、金竜地獄、かまど地獄、鬼山地獄、血の池地獄、竜巻地獄、坊主地獄の9つの地獄がある。私たちは、このうちの血の池地獄、竜巻地獄、海地獄を見学した。



酸化鉄で赤色熱泥からなる日本最古の天然地獄



血の池地獄の足湯



竜巻地獄は、約30分休止して5分間噴出する間歇泉



海地獄熱湯に竹籠に入れた卵を竹竿で吊り下げて茹でている



子供が乗れるというアマゾンの大蓮の葉



きれいなコバルトブルーをした海地獄

10. 臼杵の石仏

臼杵(うすき)の石仏は、切り立った丘陵の崖面に彫りだされた磨崖仏。古園石仏、山王石仏、ホキ石仏第1群、ホキ石仏第2群の四群から成っている。平安時代後期から鎌倉時代にかけて彫られたと考えられている。59体の磨崖仏が1995年6月15日に、石仏としては我が国ではじめて「国宝」に指定さ

れている。

土産店で大分名物の団子汁の昼食をすませた後で、石仏を見学した。梅雨が上がったばかりで、気温は35度を超え、うだるような暑さであった。



石像を見るため、うだるような暑さに耐えて石段を上る



国宝に指定されている磨崖仏



土産店のガイドの説明を熱心に聞く

11. あとがき

インターネットの発達でパソコンから色々な情報を簡単に得ることができるようになった。この旅行記を書くに当たってもネットのお世話になった。しかし、旅行に勝るものはない。旅をすれば知識を得るだけでなく、色々なことを見聞し、体験することができる。仲間と旅すればお互いの絆を深めることができる。今回の旅行も、大変有意義なものになった。

思い出に残る楽しい旅行ができたのは、株式会社ダイクレ、ピーシー橋梁株式会社、高知県橋梁会玉井会長、今回の旅行に参加された皆様、その他関係各位のおかげである。心から御礼申し上げます。